

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第三主日礼拝のしおり

2023 年 1 月 22 日

前奏

招きのことば：詩編 27 編 1, 4-9 節

主はわたしの光、わたしの救い ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう
命のある限り、主の家に宿り主を仰ぎ望んで喜びを得 その宮で朝を迎えることを
災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ 幕屋の奥深くに隠してくださる
岩の上に立たせ 群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる
わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、歓声をあげ 主に向かって賛美の歌をうたう
主よ、呼び求めるわたしの声を聞き 憐れんで、わたしに答えてください
心よ、主はお前に言われる「わたしの顔を尋ね求めよ」と
主よ、わたしは御顔を尋ね求めます。御顔を隠すことなく、
怒ることなく あなたの僕を退けないでください。あなたはわたしの助け
救いの神よ、わたしを離れないでください 見捨てないでください

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは誰かの必要に答えて生きています。お父さん、お母さんの思いを受け継ぎ、先輩や仲間たちの期待を受けて、あとから続く者たちへの使命感によって歩んでいます。しかしイエス様は時に私たちにお声をかけてくださいます。そして「わたしに従ってきなさい」と招いてくださいます。私たちの毎日の生活を外面的に変えるということが目的ではありません。むしろ私たちが自分の心に向き合うことができるためです。私たちが心からイエス様を第一としているのかを問うていらっしやいます。イエス様を第一として歩むところに、ほかのすべてのことが整えられてすっきりとした生きがいと満足があり、ほんとうに人々の祝福となって歩む毎日があります。イエス様を第一とすると言いながら、ほかのものと同じくらい大切にしている自分に気づくと、心を一新して覚悟をもってイエス様に従っていくように修正できるように導いてくださいます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリント人への第一手紙 1章 10-18節

さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい。わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言い合っているとのこと。キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。クリスポとガイオ以外に、あなたがたのだれにも洗礼を授けなかったことを、わたしは神に感謝しています。だから、わたしの名によって洗礼を受けたなどと、だれも言えないはず。もっとも、ステファナの家の人たちにも洗礼を授けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせる

ためだからです。十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

福音書朗読：マタイによる福音書 4章 12-23節

イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。

讃美歌 225 番

- 1 すべての人に 宣べ伝えよ 神のたまえる みおとずれを
天(あめ)なる父は 御子をくだし、救いの道を 開きませり
- 2 あまねく宣べよ よき知らせを、まことの幸(さち)を求めつつも、
むなしきものに 誘われゆく 世のはらからに 宣べ伝えよ
- 3 十字架のうえに 死にたまえる 御子こそ永久(とわ)の救いなれや
神のたまえる この知らせを、地の果てまでも 告げひろめよ **アーメン**

説教：「わたしについて来なさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

神様から救い主として遣わされたイエス様が、いよいよ公けの働きに入っていくときのことです。公けの働きに伴って、鍛えて育てていく弟子を選ばれました。普通は弟子になる人が師匠に頼んで暫くおいてもらって、そのあと認められたら正式な弟子となっていくのですが、イエス様のお弟子たちはそうではなく、イエス様が直接お出会いして「わたしについて来なさい」と言っていていきなり正式な弟子に召してくださいました。このみ言葉は私たちの慰めであり、励まし

です。イエス様は責任をもって弟子たちが実を結ぶ信仰を持つように育てていかれました。私たちも自分でイエス様に必死についていくというのではなく、ついて来なさい、と言ってくださったイエス様が責任をもって導いてくださるのです。イエス様は私たちの弱さを共に担うためにバプテスマのヨハネから洗礼を受けてくださり、私たちに実を結ばない人生を遅らせようとする悪魔の誘惑を荒野で受けて、みごとに打ち勝ってくださいました。

今日の箇所の直前に書かれている荒野の誘惑の箇所では、イエス様は実を結ぶ信仰の悪魔とする悪魔の三種類の巧みな誘惑に勝利してくださいました。ちょうどマタイの福音書13章に出てくるみ言葉の種のお話しと重なったところがありますね。

最初の悪魔の誘惑は40日も断食をしてお祈りしていた空腹のイエス様に、この石をパンに変えなさい、と言った誘惑です。イエス様は「人は神様のみ言葉のひとつひとつによって生きる」と言われました。体の弱さや生活のタイミングを理由にして、神様のみ言葉よりも自分の感じている問題解決を優先すると、決して信仰の実を結ぶことはできません。道端に落ちて鳥に食べられた種のように。み言葉を聞いているのに、まるで飼い主のない羊のように弱り果てて倒れてしまっている人々がいました(9:36)。イエス様に従う前にまずお父さんを葬らせてください(8:21)、と言った人もいました。しかし、イエス様はペテロさんたち4人にわたしについて来なさいと言われ、彼らはそれまでの人生の全てであった網も舟も父もそこに残して、何もかも捨ててすぐにイエス様についていきました。

第二の悪魔の誘惑は、神様が守ってくださるのだから神殿の屋根の端から飛び降りなさい、という誘惑でした。イエス様は神様を試みてはならない、と言われました。根が出て芽を出さない岩地におちた種のようなですね。ペテロは元気でした。嵐の中で湖の上を歩いて助けにきてくださったイエス様に私も同じように湖を歩いてあなたのところに行きます、と言いました。途中で怖くなって沈みかけました。また、イエス様がエルサレムで祭司長たちに捕らえられて殺されるといわれるので、それなら私も命を懸けて従いますと言い、ついに大祭司のところの中庭まで入っていきましたが、自分の身の危険を感じたら三回もイエス様を知らないと言ってしまいました。自分の正義感や使命感だけでは信仰の実を結ぶことができないのです。しかし悪魔に打ち勝ってくださったイエス様は、沈みかけたペテロに手を伸ばして助けてくださいました。三回裏切ったペテロにも復活のあとでガリラヤの山でお会いしてくださいました。

第三の悪魔の誘惑は、イエス様が世の栄華を支配しているかに見える悪魔をひれ伏して拝むなら十字架や復活と言う道を通らなくてもすべてを与えよう、という誘惑です。求めている結果を得ることができるなら神様を礼拝するという良心を偽り、少くく妥協して偶像を礼拝してもいいのではないか、という甘い誘惑です。茨の中に落ちた種は実を結ばないで茨がふさいでしまいました。イエス様は悪魔に、退け、サタン、神様だけを拝み仕えよ、と聖書に書いてあるではないか、と言って打ち勝ってくださいました。

私たちのために悪魔の誘惑に打ち勝たれたすぐあとで、イエス様はバプテスマのヨハネがヘロデ王に捕らえられたと知られて、ガリラヤに退いてそこで公けの生涯のはじめに「悔い改めなさい、天の国は近づいた」と宣べ伝えられ始めました。そして弟子たちを招かれたのです。ガリラヤ湖のほとりを自ら歩いて、弟子たちを選んで、わたしについて来なさい、と二組の漁師の兄弟を召されました。お弟子たちを連れて、ガリラヤ中を行き巡り、諸会堂で教えて、天の御国の福音を宣べ伝えて、病気の人びとを助けてくださいました。

では、十分に準備をされて、丁寧に人選をして召されたお弟子たちは、果たして豊かな実を結ぶことができたのでしょうか。残念ながら必ずしもそうは言えないようです。お弟子たちはイエス様にしっかり従い通して立派に成長して成果を上げた模範とはなりませんでした。お弟子たちはそのあと三年ほどイエス様に従いました。けれども、お弟子たちは豊かな信仰の実を結ぶという歩みはできませんでした。ガリラヤ地方の町や村や山や湖のほとりで人々にお話になるイエス様に従っていきました。あるときは二人一組で、近くの村にイエス様と同じように福音を語るために派遣されて実地訓練を受けたこともあります。ガリラヤ湖の反対側に行ったり、ご一緒に北にあるピリポカイザリヤに行ったりしました。けれども、エルサレムで祭司長たちに捕らえられて、不当な裁判に会い、恥ずかしい姿でむごたらしい十字架につけられて死なれた時は、彼らはみなイエス様を見捨てて逃げてしまっていました。何という弟子でしょう。彼らは弟子として実を結ぶことができませんでした。

けれども、そんなお弟子たちにイエス様は何を語り、何をしてくださったかを見ると、お弟子たちはイエス様に愛されて、強められて歩んだ見本だとわかります。お弟子たちを選んで、ついて来なさいと言われたイエス様が、お弟子たちの歩みについて責任をとってくださっているのです。ですから私たちは安心をすることができます。お弟子たちがどれほど、自分の気持ちや事情を優先したり、から元気で興奮してがんばったり、現実の中で巧みに妥協して外面を繕うようにしても、イエス様はそれらの誘惑に負けてしまっている弟子たちと共にいてくださったのです。私たちは弟子たちを導いてくださって、復活されたあとで「人間をとる漁師にして」くださり、実を結ぶ神様の器としてくださったイエス様を見ます。どんなときもイエス様は約束通りともにいてくださいました。弟子たちは自ら実を結ぶことはありませんでしたが、イエス様が実を結ぶものに導いてくださいました。それは私たちの大きな慰めであり励ましです。

私たちは残念ながら、お弟子たち以上に弱く、自己中心、わがままな者です。自分の生活を助けてもらうためにイエス様を信じているようなところがあって、病気を治してもらっても本当にイエス様を信じることがなかったたくさんの民のような姿かもしれません。精一杯イエス様に従っていかうとしているのに、自分の元気や熱心とイエス様に信頼することの違いがわからないで、うまくいかないこと、苦しいこと、失敗をしてしまうと、そんな自分を責めて、神様を責めて、忍耐と感謝の実を結ばないでいます。神様が何でもおできになる方であることを自分で制限してしまって、何とか妥協と工夫で良い方向に持っていこうとします。私たちはマタ

イエスの福音書に描かれている弟子たちと同じなのですが、イエス様がまず私たちに出会ってください、私たちの生涯の責任をもってくださることを聴きとっていきましょう。

イエス様は私たちと共にいてくださるために来てくださいました。イエス様が十字架で私たちの罪を担って死んで、すべての罪を赦してくださったのは、神様が私たちをイエス様のゆえに正式にご自分の子どもとしてくださって、私たちとともにいてくださるためでした。苦勞のたえない人生ですが、その中でイエス様の導かれる方向へイエス様のくびきをおって歩み続けることが、一番大きな安らぎです。すべて疲れた人、重荷おって苦勞している人はわたしのもとに来なさい、とイエス様はおっしゃいました。わたしはあなたがたを休ませてあげよう、といってくださいました。イエス様のくびきは負いやすく、イエス様の荷は軽いからです。失敗したら手を差し伸べてくださり、イエス様に信頼し続けることを教えてください。自分のふがいなさにかっかりしても、悔い改めてイエス様に向き直って、赦されていること、新しいいのちをいただいていることに立ち返って、神様が共にいてくださる道を歩み続けるのです。悪い木は悪い実しか結ばないのですが、私たちは共にいてくださるイエス様によってよい木とされ続けて、よい実を結ばせていただきます。弟子たちを村々にお遣わしになったとき、イエス様は「ただで受けたのだからただで与えなさい」と言われました(8:8)。また、「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」とも言われました(10:16)。誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい、心が燃えていても体は弱いのです(26:41)とも言われました。そして私たちがイエス様に従って歩んでいるうちに、私たちの目には未完成に見えても、イエス様が再び来てくださって完成してくださるので、目を覚ましてイエス様を待ち望むように、とも勧められています(24-25章)。

イエス様は「わたしについてきなさい、あなたを人間をとる漁師にしてあげよう」とペテロたちに言われました。私たちもイエス様に従っていきましょう。それは日々の悔い改めです。自分の考えも、自分の利益も、自分の価値観も、手放してイエス様にお任せし、イエス様についていくことです。イエス様はあなたの生活をあなたと共にいてくださる神様の温かい目で見なおすことができるようにしてくださいます。あなたがもっている志しを祝福して生かし、あなたを用いて人々の役に立つ新しい喜びの生きがいを見せてくださいます。イエス様はペテロたちに、人間をとる漁師にしてあげよう、と約束してくださっています。それが共にいて成し遂げてくださるイエス様のみわざです。私たちは不完全で、ときに信仰がわからなくなり、神様のみ旨がわからなくなります。しかし十字架で死んでよみがえってくださったイエス様は、私たちのすべての罪を赦して神様の子どもとしてくださる救い主として、また私たちの今日の歩みを支え導いて最後の完成にまで責任をもって至らせてくださる主です。イエス様についていきましょう。朝起きたら、揺れ動く心をしっかりイエス様の方に方向転換をし、ひたすら祈りながら、感謝をしましょう。一日のわざをする中で、何をするにも人に対してではなく主に対してするように心を込めて行いましょう。根気強く、時をよく用いて歩みましょう。人を貶めるのではなくて、むしろ立てあげるように、塩気を保った快い言葉を語りましょう。主に結ば

れた者としてゆだねられた務めを投げやりにしたり怠ったりせずに、意を用いてよく果たしましょう。人びとに信頼される歩みをしましょう。イエス様は世の終わりまでいつも共にいてくださり、私たちを誘惑から守り、豊かに赦し、実を結ぶように導いてくださいます。

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。マタイによる福音書4章19節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 493 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 罪の淵に 陥りて 沈み行く人々に 助け舟を漕ぎ寄せよ 雨の日も 風の夜も
※ひとりだにも 減ぶるは 御旨ならじ 助けよ
- 2 背き去りし子を偲び 夜もいねぬ 母のごと 父の神は待ちたもう ただ悔いて帰れよと※
- 3 悩む者の涙より なお深き嘆きをば わが主イエスはなしたもう 伝えずや このみ旨 ※
- 4 情け知らぬ罪びとの 心にも宿るなり 母の思い、神の愛、ここにこそ救いあれ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に としわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏